

感染症対策

ウイルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には**
危険な場所にいる人は避難することが原則

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき 5 つのポイント

1 避難とは『難』を『避』けること

自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。

2 避難先は学校・公民館だけではありません

避難所が過密状態となることを防ぐため、**安全な場所に住む親戚・知人宅に避難**することも検討しましょう。

3 マスク・消毒液・体温計が不足しています

避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ**自ら携行**してください。
(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)

4 避難所の変更・増設を確認

本書発行後に情報が変わる可能性があります。あらかじめ**秩父市のホームページ**等で**確認**してください。

5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です

避難先への経路など**周囲の安全確認**を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

・避難所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。
避難所に入る前に、発熱の有無など体調をチェックしましょう。

・手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

・咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくても屋内ではマスクを着用しましょう。

・換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。
換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策が必要です。

・「3密」(密閉・密集・密接)の回避

避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

・日々の健康状態をチェック

定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

